



The 47th Annual Scientific Meeting of the Japanese Society of Hypertension

第47回日本高血圧学会総会

モーニングセミナー

Morning Seminar

日時

2025年10月18日(土) 8:00~8:50

会場

KABUTO ONE (カブトワン)

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町7-1

心臓と血管の連関を 意識した高血圧診療

座長

苅尾 七臣 先生

自治医科大学
循環器内科学部門 教授

演者

清水 一寛 先生

東邦大学医療センター佐倉病院
循環器内科 准教授

共催：第47回日本高血圧学会総会／フクダ電子株式会社

モーニングセミナー

Morning Seminar

心臓と血管の連関を意識した高血圧診療

清水 一寛

東邦大学医療センター佐倉病院 循環器内科 准教授

日本の“国民病”ともいえる高血圧症、および高血圧症に伴い生じる左室肥大は、将来の心不全発症の母地となるため、的確な評価と適切な介入が求められます。治療においては、第一選択薬としてカルシウム拮抗薬やアンジオテンシンII受容体拮抗薬 (ARB) が広く用いられていますが、十分な降圧が得られない場合には、心不全治療薬として普及しているサクビトリル／バルサルタン (ARNI) が本邦でも高血圧症への適応拡大が承認され、次の選択肢として加わっております。また、難治性高血圧の一因である閉塞性睡眠時無呼吸症 (OSA) に対する経鼻的持続陽圧呼吸療法 (CPAP) は認知が進み、治療介入例は年々増加しています。

一方で、動脈の状態を知る評価系として、動脈弾性能は心臓の後負荷として極めて重要です。測定時の血圧に依存しない指標として、本邦で開発され世界に普及しつつある心臓足首血管指数 (CAVI) は、日常診療に耐えうる評価系として注目されています。白井らによる2006年のCAVI原理論文報告以来、多様なエビデンスが蓄積されつつあり、最近では高血圧治療抵抗例に対するARNIの使用で、血圧の改善のみならず、左室心筋重量係数 (LVMI) の改善も報告されました。

心臓と動脈は機能的に連関しており、動脈弾性の改善は後負荷軽減を通じて心筋負担の低減にもつながります。将来の症候性心不全発症を予防するためにも、動脈弾性機能を意識した高血圧治療戦略が求められ、今回のセミナーが、その実践に向けた一助となれば幸いです。

共催：第47回日本高血圧学会総会／フクダ電子株式会社